

## 新旧理事長挨拶

### 新理事長 あとへ すずむ 跡部 進



このたび平成17年4月1日付で理事長に就任致しました。これまで、北海道庁の水産行政や水産試験場、入札改善の業務に携わり、最後は北海道立水産孵化場で内水面やさけ・ます資源研究のマネージメントを担当して参りました。退職後1年間、就農研修生として土に触れる生活を送るなど、全く別の将来ビジョンを描いた暮らしを送っておりましたが、前理事長の退任に伴い、第1期の残された期間で国から課せられた当センターの中期目標を達成すべく就任した次第です。

当センターは、さけ・ます類のふ化放流、調査研究等を行うことにより、適切な資源管理に資することを目的として設立された機関です。100年以上にも及び官民一体となったさけ・ます増殖事業の取り組みにより、今日のさけ・ます資源が維持されています。また、さけ・ますは、国民の需要が高く、北日本の沿岸漁業の振興を図る上で重要な魚種であるほか、国際条約の下、母川国として第一義的な利益と責任を有し、適正な管理義務が課せられております。さらに、国が定めた水産基本法において、水産施策の基本理念の一つとして「水産物の安定供給の確保」が定められており、さけ・ます資源の適切な保存管理と持続的な利用を図

ることが重要な施策となっています。

こうした背景の下、当センターは平成13年4月に独立行政法人へと移行し、中期目標を達成すべく、さけ・ます増殖事業の根幹部分であるさけ・ます類の系群保全及び増殖基盤のためのふ化放流、資源管理に資するための調査研究・技術開発並びに増殖技術の指導等の業務を行っているところであります。

しかしながら、中期目標期間終了時の見直しに伴い、当センターは平成18年4月を目途に独立行政法人水産総合研究センターと統合することとなりました。

水産総合研究センターは、我が国における唯一の水産に関する総合的な研究機関であります。新たに当センターの研究者・技術者等が加わることにより、さけ・ます類に関する基礎研究から応用研究、実証までの一貫した研究体制ができ、より質の高い研究開発の展開が可能となるものと考えております。

私どもの組織は明治21年に千歳中央ふ化場が設置されて以来、社会経済情勢の要請に応じて、幾多に渡り変遷がございましたが、一貫して漁業者や関係者の皆様とともに調査研究や技術開発、資源増大への貢献に努めて参りました。統合を控え、また新たな改革を進めることとなりますが、今後はより広く国民全般の理解を得て、さらに皆様方のご期待に応えられるものとなるよう努めて参りたいと考えておりますので、これまでと同様にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 前理事長 おおにし かつひろ 大西 勝弘



今、私の手元に二枚の写真があります。どちらも平成13年4月1日に撮影されたもので、バックには「祝 独立行政法人さけ・ます資源管理センター設立」と書かれています。一枚は本所職員の皆さんに私が設立にあたっての心構えなどの挨拶を申し上げているもの、もう一枚は、設立にあたり催されたささやかな宴席で、組織の益々の発展と業務の円滑な実施を祈念して乾杯をしているものです。

理事長を退任して約5ヶ月、今見ると懐かしさを感じる二枚の写真ですが、この日を迎えるまでの職員の皆さんのご苦勞には並々ならぬものがありました。特定独立行政法人ということで、国家公務員の身分を有することから、就業規則や各種規定など、これまでのものを踏襲できるものもありましたが、いずれにしても、新しい組織として、全ての規則、規程などを新規に作らなければならず、大変な勞力を要しました。特に、経理はこれまでとは全く異なり、企業会計原則によるといふことで、担当の皆さんには大変なご努力を頂きました。この間のご苦勞並びにご努力に対し、改めてお礼申し上げます。私が組織運営の責任者に任命されたとき、その責任の重大さに押しつぶされるような緊張感を覚えたのを思い出します。自分は本当に組

織を円滑に運営し、計画通り業務を推進できるのだろうか。また、144人の職員を守ることができるのだろうか。組織の長として当然のことですが、これまでの4年間、毎日が自問自答の繰り返しでした。しかしながら、歴代の理事並びに職員の皆さんのおかげをもちまして4年間無事に理事長としての責任を果たすことができたと思っております。

私は、新しい組織の出発に当たって、「これからは皆さんが実施してきた個々の業務について、外部の評価を受けなければならず、その評価によっては組織の存在そのものにも大きな影響を与えることになることを認識して頂きたい。さけ・ます資源管理センターは長年に渡って養われてきたさけ・ます増殖事業に関する高度な知識と技術を有している。この知識と技術を将来に渡って研鑽することが必要である。」とお話させて頂き、これを基本に据えて組織運営にあたって参りました。平成18年4月1日には水産総合研究センターとの統合が予定されており、跡部理事長の下で、皆さん一丸となって準備を進めていることと思いますが、私のつたない考えが、ほんの少しでもどこかに残して頂ければ幸いです。

最後になりましたが、この4年間、ご協力にいただきました関係機関の皆様方に対し、改めてお礼申し上げますとともに、皆様方の今後のご繁栄とさけ・ます増殖事業の益々の発展を心からお祈り申し上げます。